

用語解説

用語	説明	掲載ページ
【あ行】		
雨水管理総合計画	下水道による浸水対策を実施する上で、当面・中期・長期にわたる、下水道による浸水対策を実施する区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的な事項を定めるものです。	1, 32
雨水管理総合計画策定ガイドライン(案)	雨水管理総合計画策定ガイドラインは、雨水管理総合計画を策定するにあたり、国土交通省で実施したフィージビリティスタディ(FS)等の具体的な事例を交えながら、雨水管理方針に定めるべき事項や検討フローや段階的対策計画の基本的な事項について示すものです。 なお、本ガイドラインについては、今後も各都市での取組や知見を踏まえ、随時内容の充実を図っていくこととしています。	14
雨水管理方針	雨水管理総合計画のうち計画期間、策定主体、下水道計画区域、計画降雨(整備目標)、段階的対策方針等を定めるものです。	1, 32
雨水流出抑制施設	雨水を地下に浸透させる施設(雨水浸透ます、浸透トレーンチ等)や雨水を貯留する施設(調整池等)またはこれらを組み合わせた施設をいいます。"	37
オンサイト貯留	雨水の移動を最小限に抑え、雨が降ったその場所で貯留し、ピーク流出量を抑制するもので現地貯留とも呼ばれます。	33
【か行】		
共助	地域内の住民や施設管理者が協力し合うことによって浸水被害の軽減を図る活動で、避難時の近所への呼びかけ、集団での避難活動のほか、平常時からの情報伝達訓練、側溝等の清掃活動等をいいます。	38
下水道 BCP	大規模災害時のリソース(人、モノ(資機材、燃料等)、情報、ライフライン等の資源)の制約を受けた状態で下水道機能を回復させていく手順が整理されているが、下水道区域が甚大な被害を受け、下水道施設の復旧に対して緊急性がない場合においても、避難所等のトイレ機能が確保されるか等の視点で、より実践的な災害対応の手順を検討した計画	6
降雨強度	雨の降り方の強さを単位時間あたりの雨量で表した数値です。 下水道の計画では、一般的に1時間単位の雨量で表記されます。	7
降雨強度式	対象とする雨が降り続く時間における平均的な雨の強さを表現した関係式	7
公共下水道事業計画	下水道法に基づき5~7年の間で実施する予定の事業内容等を定めた計画です。なお、「下水道法に基づく事業計画の運用について」により、事業計画の「その他事業計画を明らかにするために必要な書類」において、浸水対策を含む必要な施策ごとに施設の設置および機能の維持に関する中長期的な方針を記載することとされています。	6, 7, 14
公助	行政による浸水対策をいい、下水道管理者によるもの、	1

	他の管理者によるもの及び他行政機関との連携により行うハード対策及びソフト対策が含まれます。	
合流式	汚水と雨水をいっしょの合流管に集めて流す方式	7
【さ行】		
自助	住民もしくは施設管理者等が自身の責任において浸水被害を軽減するために行う活動をいい、止水板の設置、土のうの設置、避難活動等のハード対策及びソフト対策が含まれます。	38
ストックマネジメント計画	下水道事業の役割を踏まえ、持続可能な下水道事業の実現を目的に、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状態を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理するための計画	6, 7, 26, 34, 37
【た行】		
調整池	集中豪雨などの局地的な出水により、河川の流下能力を超過する可能性のある洪水を河川に入る前に一時的に溜める池のことです。	33
mm / h (みりめーとるぱーあわー)	雨が降っている期間の中で、1時間あたりで一番多く雨が降った量(時間最大)をいい、mm/hで表します。ピーク1時間あたりの雨量ともいいます。 たとえば、60mm/hの雨とは、雨水が別の場所に流れず、そのまま溜まる状況で、1時間で 60mm (6cm) の高さになる雨であり、1m ² あたりでは 60 となり、牛乳パック 60 本分の雨となります。	2, 10, 12 ほか
【な行】		
内水氾濫	台風や長雨により河川の水位が上昇している場合や、雨水排水施設の能力を超える局地的な大雨が発生した場合等に、道路等に水が溢れている、低地やまわりより低い窪地に水が溜まってしまう、川にうまく排水が出来ずに道路や住宅地等が浸水している状態をいう。	11, 12
【は行】		
分流式	汚水は汚水管、雨水は雨水管、それぞれ別々の管きよで流す方式	7
【ま行】		
マイ・タイムライン	住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇すると時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え方を守る避難行動のための一助とするもの	11, 38
マトリクス	データや情報を整理し、視覚的に表現するためのツール。特にリスク評価等によく使用される。	26, 28
【ら行】		
流出解析モデル	降雨における雨水の流出挙動をシミュレーションするためのモデル。このモデルを使用することで、洪水や浸水のリスクを評価し、適切な排水対策を検討することができる。	12, 37